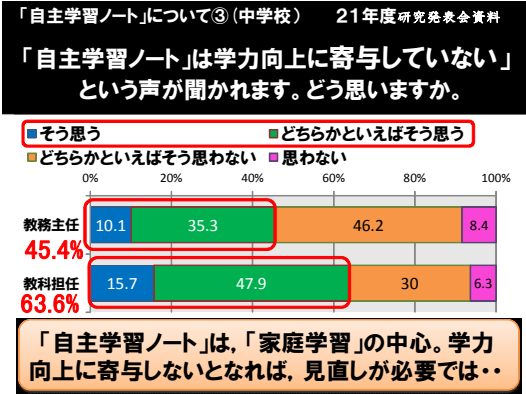


「真の学力向上」これまでの取り組みと成果

総合教育センター
所長 藤原 忠雄

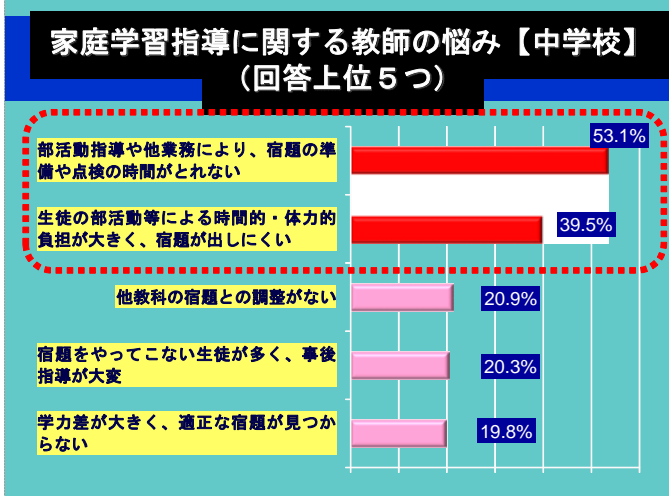
これまでの3年間は「真の学力向上」でテーマに討論を深めてきました。スクリーンをご覧ください。

アンケートによると本県の中学校の家庭学習は自主学習ノート中心だが右のような声が寄せられました。



この時のシンポジウムを受けて、小中学校共に、約半数の学校で家庭学習の見直しが行われました。

しかし、家庭学習の問題点を感じつつも改善できない理由に、中学校におけるスポーツ少年団活動との関係が浮き彫りになりました。



その問題を取り上げた平成22年度の全体会のシンポジウムにおいて、スポーツ少年団の本部長さんから次のような提言がありました。

県教育委員会も平成23年4月22日付け教第43号で通知を出しました。

その内容の一部は右のような内容です。月曜日を部活のない日に設定する地域も増えてきました。

このほか、目標達成型学校経営、教育振興運動などの成果もあり、今年度の全国学習状況調査においては、全国ワーストであったテレビ・ビデオ視聴時間は全国並に改善され、授業がわかると答えた児童生徒の割合も大幅に増加してきました。

今後も全国調査がありますが、単に他県と順位を比べるのではなく、本県の各教科の経年変化や教科バランス、全国との経年比較など、データの公開と分析が今後いっそう求められると考えます。

今年度の全体会ではこれらを踏まえていただき、「校種間連携と岩手の人材育成」というテーマでシンポジウムをお願いしているところです。

スポーツ少年団本部長さんからは

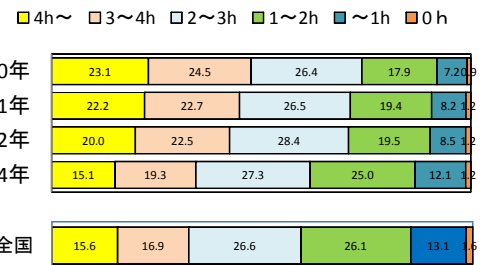
活動時間が長時間であったり休みがないのは良くない

スポーツ少年団の加盟率は
小学校 中学校
岩手 26%→25% 活動延長の隠れ蓑に利用されている
秋田 37%→3% 部活動に移行 あるべき姿
(東北の他県もほぼ同じ傾向) (遅くとも6時半には部活終了)

時間を決め効率的な科学的練習が大切
教育研究岩手に収録

- 中学校のスポーツ活動にあっては、活動する生徒が重複する運動部の活動とスポーツ少年団活動等をそれぞれの活動としてとらえるのではなく、生徒にとっては一連の活動としてとらえ、適切な休養日や活動時間を設定すること。
- 学校関係者と外部コーチやスポーツ少年団活動等の指導者との情報交換の場を設定すること。

1日のテレビ・ビデオ視聴時間【全国学調・中学校】



授業内容はよくわかりますか【全国学調・小6】(当てはまる + どちらかと言えば当てはまる)

